

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>年長者に対する尊敬の念を持って、地域の中での個人と捉え、個別的なケアができるよう理念をつくり上げている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>定期的なミーティングおよびケアカンファレンスを通じて職員全員に伝えている。日々のケアとして実践できるように、常に見える場所に理念を提示している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの理念をリビングに提示しており、見ていただきながら説明を行っている。また、運営推進会議などの地域や家族の方が集まる機会には説明している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>積極的外出の機会をつくり挨拶するようにしている。同敷地内に通所施設や医院もあり、立ち寄っていただけるような雰囲気づくりを心がけている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の方と商店街への買い物は日常的に出かけるようにしている。挨拶やちょっとした会話でも、大切にし、気軽な雰囲気をつくるよう継続的に取り組んでいく。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入している。クリスマス会など地域の方に開かれた行事の計画にも取り組んでいる。運営推進会議を通じて、自治会、老人会、婦人会、民生委員の方など、地域の方との交流に務めている。</p>	<p>○</p> <p>入居者にとっても、地域の方にとっても、馴染みある行事になるよう続けていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方や家族の方に意見を出してもらえるよう声をかけているが、まだ具体的な計画までに至っていない。	○	家族の方や地域の方が集まる機会には、意見をいただいて、積極的に取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を踏まえてミーティングを行い、具体的な改善に務めている。また、運営推進会議でも議題として取り上げ、意見をいただいたり、改善策を話し合っている。	○	外部評価を生かして、サービス向上の具体的な計画や改善をしていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では議題のほかに、必ず自由な意見交換の時間を設け、そこで具体的なサービスについて、実際に取り組んでいることや計画していることを伝え、意見をいただきサービス向上に活かしている。	○	意見の出やすい会議の進行に努め、メンバーから地域行事に誘っていただいたり、具体的な意見をいただいている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では行き来する機会が少ないが、会議の前後に話しをしたり、電話での情報交換や相談をする機会がある。	○	会議以外でも話ができるような関係を構築している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度は、推進会議を通じて資料とお話をいただき職員が知識を得ている。	○	職員全員が理解できるように、定期的なミーティングを生かして勉強会を計画したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、定期的な勉強会はしていない（身体拘束については委員会活動あり）。虐待の予防については通所施設や協力医院の職員と情報交換ができています。様々な虐待の形があるので、勉強会を行い、広く学んでいきたい。	○	継続的に日々の情報交換に努め、虐待についての知識を深められるように勉強会も計画したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見ていただきながら説明しており、利用者や家族の方の不安の軽減に努めている。	○	不安の軽減に努め、丁寧な説明を心がける。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱・苦情箱を設置している。居室や外出先、どこでも誰とでも自由に話ができるように配慮している。知り得た情報は運営に生かすようにしている。	○	利用者が誰とでも自由に話ができるように配慮していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、一人ひとりの暮らしぶりや健康状態についてはホーム便りを送り、金銭の出納についても報告している。心身の状態に変化があった場合など、必要に応じてすぐに報告するようにしている。	○	ホーム便りは本人の心身の状態、暮らしぶりが伝わるような書き方に気をつけている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱・苦情箱を設置し、家族の方には意見をいただけるように積極的に声かけをしている。現在具体的な苦情が出ていないが、あれば速やかに対応する準備ができています。	○	意見や苦情を出してもらえるように、意見箱・苦情箱の活用を呼びかけていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チームカンファレンス、全体会議で職員の意見や提案が自由に述べられるようにしている。出された意見については早期に実行または解決できるようにしている。また、会議日に関係なく、いつでも意見ができる雰囲気づくりをしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	できるだけ要望に沿えるよう調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ダメージは最小限になるように配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務年数や、個々の能力、希望などに応じて研修参加を促し参加している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同敷地内の通所施設や協力医療機関職員とは活発に情報交換を行い、一緒に勉強会も開催している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の親睦のため、職員旅行を予定している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の個々の能力や個性、努力や実績の把握に努めている。</p>	<p>○ いつでも相談にのれるような雰囲気づくりを心がけ、個々の能力が生かせるようにしている。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>できるだけ本人から話してもらえるように務め、必要に応じて、訪問も行っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>不安や疑問については、何度でも説明させてもらうようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム入居に関係なく、本人と家族の一番困っていること、不安なことへの問題解決を優先して対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族の方の意見を聞きながら、訪問をしていただいたり、昼食だけ一緒に食べていただくなどの工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に考えたり楽しんだり、同じ時間を過ごし、入居者の方に教えていただいたり、話しを聞いていただく場面もある。	○	一方的な援助ではなく、相互的な支援をしていき、一緒に過ごす時間を大切にしたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者の様子を伝え、どのように過ごしてもらったらよいか、話す機会を持つようにしている。	○	家族の方とはできるだけ話をする機会を持つようにしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの家族関係を大切に、よりよく継続できるように、面会は時間に関係なくできるようにしている。面会場所も、居室やリビング、好きな場所でもらっている。また、家族との外出も自由に行っている。	○	家族の方とよりよい関係でいられるように、自由な面会や外出を支援し、家族の方と過ごす時間を大切にしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問が可能な方にはいつでもホームに来ていただけるように話し、外出もできるだけしてもらうように働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の関わりを通じて、利用者個人の個性や利用者同士の関係の把握をし、良い関係が保てるように会話をとおして交流を促したり、座る位置などにも配慮して声かけや誘導を行っている。	○	さりげなく交流を促したり、座る位置や会話の誘導を行ってほしい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同一敷地内に通所施設、医院があり、そちらを利用している場合には顔を合わせるようにしている。また、いつでも相談を受けることを説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向の把握に努め、意向の把握が困難な場合は、複数の職員で本人本位で検討している。	○	本人の意向の把握に努め、本人の意向の把握が困難な場合は、複数の職員で本人本位で検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票を用いて把握に努めている。	○	アセスメント票はよりよい記入の方法を常に検討している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	チームカンファレンスや日々の情報交換で総合的に把握するように心がけている。	○	情報交換を積極的に行っていききたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	できるだけ多くの関係者で話し合って作成している。随時カンファレンスも行い、伝達用紙にも気づいたことを書き込めるので、活用している。	○	できるだけ多くの情報を集め、カンファレンスや情報伝達用紙を活用して、介護計画の作成に生かしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに見直しを行っているが、心身の状況や環境に変化があればその都度見直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	課題や目標が常に確認できるように、工夫し記録している。よりよい記録になるよう記録用紙や記録の方法も、話し合いを行って改善している。介護計画の見直しに活用している。	○	日々の記録を介護計画の見直しに活用していきたい。よりよい記録になるよう話し合いを続けていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自由な外出・外泊をはじめ、本人や家族の意向や要望に柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの協力が得られるように地域とのつながりを持っている。	○	地域とのつながりを広げていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	研修の参加などをきっかけにして、他の事業者やケアマネジャーと知り合い、積極的に話をするようにしている。	○	他のサービス事業者、ケアマネジャーと情報交換を行い、本人の状況に合わせたサービス利用の支援に努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護が必要な対象者はなかったが、担当者と情報交換する機会を持っている。	○	情報交換を行い、必要時は協働できるよう心がけたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、納得が得られたかかりつけ医と連携している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接の協力医療機関に指示・助言をもらえる体制が確保できている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホームに看護職員がおり、また、隣接の医院、通所施設の看護職員とも常に連携の体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	隣接の協力医療機関の主治医を通じて、情報交換を行い、連携を取っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	担当者会議などを通じて、早い段階から本人、家族の希望を話し合うようにしている。また、話し合った内容について、定期的に確認をするようにしている。	○	早い段階から十分に話し合い、定期的に意向の確認を行っていききたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チームカンファレンスや協力医療機関との話し合いで対応に取り組んでいる。また、体調変化などは情報収集を積極的に行っている。	○	チームカンファレンスや協力医療機関とできるだけ具体的に話し合い、職員が落ち着いて、同一な対応ができるようにしたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族、関係者でできるだけ話し合っ、ダメージを最小限にできるように配慮している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年長者に対する尊敬の念を持って、個性に合わせた言葉かけや対応を行っている。羞恥心・自尊心には最大限配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中で、小さなことでも自己決定ができるよう心がけて支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活習慣、日々の行動を把握し、本人のペース、ゆったりしたペースを心がけている。	○ 本人のペースを大切にしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望にあわせている。馴染みの美容院へ行っていただいたり、希望により訪問理容も利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲が出るようにメニューを説明したり、盛り付けを工夫している。できる範囲で一緒に準備や片づけを行っている。	○ 利用者の反応を確認しながら、日々工夫していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	リビングでも居室でも好みのものを楽しんでいただけるようになってきている。現在、たばこ・お酒を嗜好する入居者はいない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握できるように排泄チェックシートを用いて、できるだけトイレを利用してもらうように支援している。	○	排泄パターンや排泄に関連する行動の把握に努め、さりげない支援となるようにしたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を確認しながら入浴していただいている。個々の状態に応じた、介助を行って安全に配慮している。	○	安全面に配慮しつつ、本人の希望に沿って支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、その日の状況に応じて一緒に就寝準備をするなど、安眠の支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味・特性を把握して、レクリエーションを計画・実行している。	○	会話や実施したレクリエーションや作業などの様子を情報交換、評価しよりよい計画にしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を管理して、一緒に買い物に行く場合もある。また、施設が管理している場合は、希望があればいつでも見せることができるようにしている。個々の希望や能力に合わせた支援を心がけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出が日常的に行われるように、外出記録表を用いて、できるだけ外出を促している。利用者から希望があればすぐに対応するようにしている。	○	希望を表出しやすい雰囲気づくりを心がけ、職員も積極的に外出に誘っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に車を使用して外出する機会を設けている。行きたい場所について利用者意見に聞いている。	○	定期的に外出支援ができるように外出表を活用している。また、利用者の希望を反映した計画を立てていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にあわせた支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来ている時にお茶を出して一緒に飲んでいただいたり、居室でもリビングでも好きな場所で過ごしてもらうようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に活動している。現在、身体拘束を行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をかけていない。玄関については道路が近く、交通事故の危険があるため鍵をかけている。徘徊される入居者の方もいるが、職員が対応できる時間には開錠をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の心身の状態把握に努め、所在や様子について常に気を配っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	貴重品については何を持っているか、全ての職員が把握し、その取り扱いについて同一対応に務め、注意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	チームカンファレンスや日々の申し送りなどで、予期される事故について話し合い、予防に努めている。	○	事故防止について日常的に考え、カンファレンスなどで話し合えるようにしていきたい。事故予防には積極的に取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しており講習を行っている。定期的な講習を実施できていないので、定期的に行けるように計画していく。	○	マニュアルの周知、定期的な訓練を実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、年に2回は防災訓練を実施している。また、ミーティングなどで連絡網やマニュアルの確認を行っている。自治会にも加入している。	○	定期的な防災訓練の実施を続けていきたい。年1回は職員全員が参加できるようにしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に様子を話す時などに、リスクについても家族の方に説明し、対応について話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、入居者の様子を注意深く観察している。看護職員、協力医療機関の連携により速やかな対応を行っている。	○	注意深い観察と、職員同士の情報交換を密に行っていきたい。気がついたときは速やかな対応を心がけたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者の疾病および服用している薬の作用・副作用について理解している。個別の服薬一覧表も用意している。	○	薬の変更があった場合は速やかに情報伝達を行っていきたい。誰がどこに記入するか統一している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	定期的な水分摂取や便秘体操を積極的に実施している。排便状態の把握にも努めている。排便は排便量や便秘薬の服薬量もすぐ分かるような記録にしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの支援を個別的に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成し、バランスよく摂取できるように配慮している。必要に応じて食べやすい形状にしたり、主食をお粥にしたりしている。水分摂取は定期的に促している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアル(インフルエンザ・疥癬・肝炎・ノロウイルス・MRSA・O-157)があり、それに沿って実行している。随時講習も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食洗時の除菌、除菌スプレーの活用を行っている。食材は業者に委託しており、ホーム内での保管をしていない。調理時の手洗いも徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花を置き、明るい雰囲気をつくるようにしている。通所施設や医院が隣接しており訪れやすい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間に生花を生けたり、入居者の作品(絵手紙や習字など)や写真を飾ってある。窓や壁、部屋には毎月の季節の飾りも一緒につくって飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	清潔で臭いにも気を配っている。テレビのところにソファがあり、和室もある。リビングの対面にも二人掛けの椅子を配置しており、好きな場所でくつろいでいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものは持ってきていただいている。どの部屋も十分な採光があり、プライバシーにも配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気をしたり、温度調整に気をつけている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置しており、車椅子や老人車を使用するにも十分な広さになっている。物干しは入居者が使いやすい高さに調整してある。	○	一人ひとりの身体能力を把握し、日常生活の様子を観察して、改善する必要があるれば速やかに対応したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋の表札、トイレのプレートは見えやすいように大きく、低い位置に設置している。利用者によっては老人車や自分の席に名前を書いている。	○	分かる力を生かし、また、引き出していけるように支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	勝手口より中庭に出られ、いつでも園芸、水撒き、洗濯物干し、洗濯入れが行える。外気浴ができるように中庭、外庭ともベンチを設置している。天気の良い日は庭でお茶を楽しむこともある。	○	中庭、外庭をもっと生かせるように、今まで以上に積極的な外気浴の声かけを行ったり、戸外でのレクリエーションを計画してみたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員間の人間関係がよく、明るい雰囲気がある。交代制で勤務しているため、情報の伝達や共有がスムーズに行えるよう、申し送りノートを活用している。また、定期的なカンファレンスや会議の他に、臨時的なミーティングを行うときも参加状況がよい。
- ・様々な委員会活動や会議の進行、行事計画なども全ての職員が順次行うようになっており、それぞれの活動についての理解を深め、責任感を持って取り組んでいる。
- ・行事については年間行事として毎年楽しみにしていただけるものと、利用者の意見を聞きながら新しい行事も考え、準備が簡単なものについてはすぐに実行している。
- ・レクリエーションなどが多いわけではなく、座って話をしていたら洗濯物が乾いたので一緒にたたむ、そんなふうに穏やかに一日が過ぎるゆったりした雰囲気をつくっている。
- ・個人の意向に沿ったよりよいケアプランの立案と実施になるよう、記録の工夫や具体的な対応の伝達を心がけている。